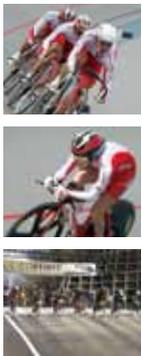




男子エリートケイリン決勝
金メダルの渡邊（先頭）と銀メダルの成田

表彰後の渡邊（右）と成田

シクリスムエコー No.169 2010年5月号



第30回アジア自転車競技選手権大会…………… 2

第17回アジア・ジュニア自転車競技選手権…………… 2

第26回全日本BMX選手権大会…………… 10

第10回チャレンジ・ザ・オリンピック…………… 11

ツアー・オブ・タイランド2010…………… 12

2010年日本自転車競技連盟強化指定選手…………… 13

2010年度主要事業予定…………… 14

競技大会結果…………… 16

日本新記録…………… 17

各大会日本代表選手団／事務局人事異動／連盟の動き…………… 18

ACCトラックアジアカップ2010のお知らせ…………… 19

アジア選手権ロードレース photo…………… 20



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

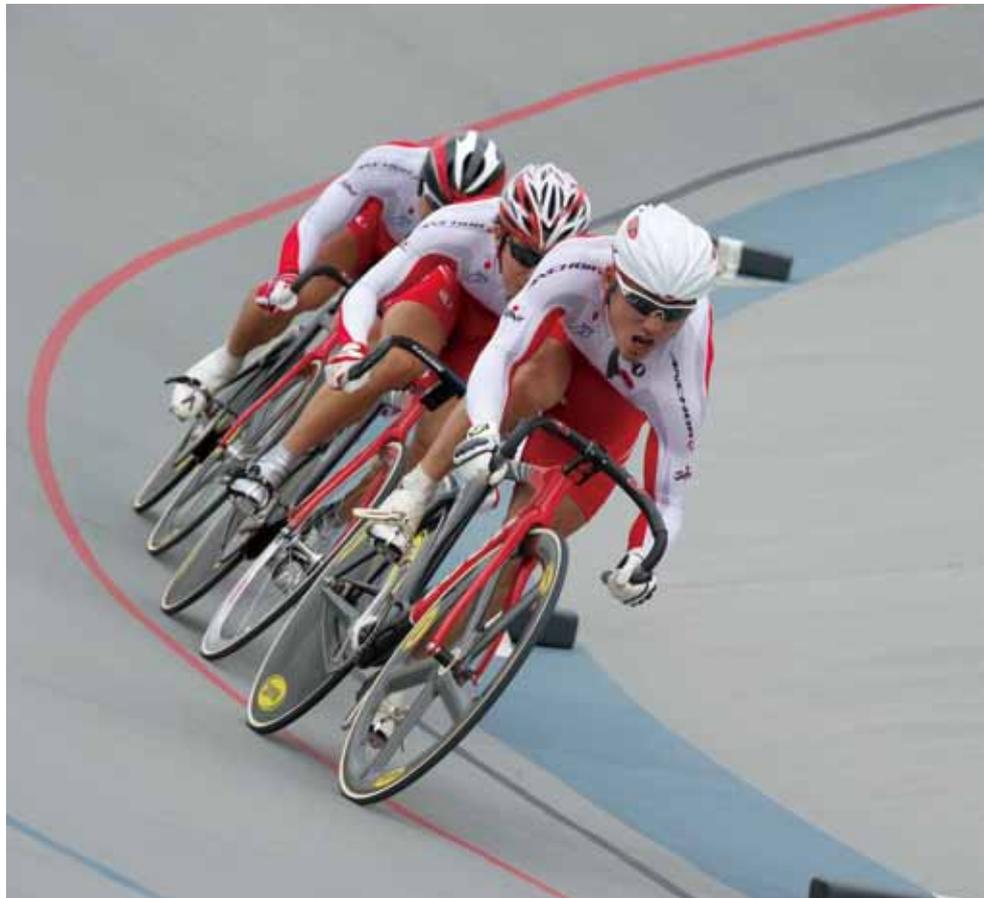


第30回アジア自転車競技選手権大会
第17回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

ケイリンで渡邊が2連覇!



女子エリート 個人TT2位の萩原
 (萩原はこの後ポイントレースで金メダルを獲得)



男子エリート チームスプリント 2位の日本

●ロードレース

4月9日 晴れ微風

個人TT 女子エリート (萩原麻由子)

15ヶ国14名の参加。1番走者が予定時刻の8時より5分早くスタート、8番目にスタートした萩原は前半無理をせずイーブンペースで走る。7.1km地点で韓国に28秒負けている。タイと台北にも微差ながら負けての4位通過で、スタートから一定した走りで見返しを狙う。

14.2km地点では3位に上がり、ラスト10kmで2分前に出たシンガポールの選手が見えてきた。

ラストパートで追い抜く目標が見えた萩原はペースを上げる。ラスト5km地点で2位に浮上しそのままゴール。優勝は韓国、萩原は10秒差で惜しくも2位となった。

個人TT 男子ジュニア (長瀬功治)

18ヶ国18名が参加、11番目にスタートした長瀬はスタートから快調に飛ばす。47km/h前後のペースで走るが7.1km折り返し地点で、前を走る韓国に20秒の差をつけられ苦戦を強いられる。

後続の選手が長瀬のタイムを上回り、7.1km地点で5位と順位を下げてしまう。後半に望みを託すが思うようにペースが上がらず、順位を下げてしまい8位に終わった。

ジュニア男子は接戦をものにした韓国が、カザフスタンに逆転し4秒差で優勝。

4月10日 晴れ 弱風

個人TT エリート男子 (清水都貴)

西谷の事故で急遽リザーブでエントリーしていた清水が出場。2日後の個人ロードにプラスになるのではないかと考え、走らせることにした。

24人エントリーで、1組目の9番走者で出走。スタートから6km地点までは4位をキープしていたが、1周終了時点で6位に後退。その後もペースは上がらず、3周目の最終ラップで、後続から来たキリギス、カザフと立て続けに抜かれ11位に後退。予想外の走りに終わった清水は、24人中16位に終わった。

4月11日 晴れ

個人ロードレース女子エリート

(萩原、豊岡、牧瀬、上野)

微風の中、女子エリート59名が8時にスタート。序盤は各国牽制しながらのペースでレースが展開さ



女子エリートロードの集団

れ、折り返し地点で初めてアタックが掛かりペースは上がるが、再びスローペースとなる。

集団から抜け出すためのアタックが繰り返されるが、カザフ・タイ・韓国などスプリントに自信のある国は、集団ゴール勝負を考え集団をコントロール。

日本チームは集団ゴールスプリントに勝算が無いので、逃げるレース展開を指示するが、思うように集団から抜け出す事が出来なかった。

最終的に集団ゴール勝負となり、スプリントに強い韓国が競り勝ち優勝。2位カザフスタン、3位にタイが入り、日本の最高位は萩原の8位。

個人ロードレース男子ジュニア

(黒枝、六峰、一丸、長瀬)

レース前のギヤ比チェックを行い、14時30分59人がスタート。スタート直後から終始アタックが繰り返され激しいレース展開の中、2周目に入ると急に風が吹き始め砂埃が舞う突風となる。

強風にあおられながらもウズベキとイランがアタック、集団から抜け出す。24km地点で1分18秒差、折り返し地点を回って集団が詰まった所で一丸が落車に巻き込まれ、前輪を交換し走るが集団から遅れる。

3周目に入り、折り返しの横風で一列棒状となった所でカザフスタンがアタック。集団が中切れで寸断、小間切れとなり7名(カザフ4名、イラン、香港、ウズベキ)が先行する2名を追うレース展開となる。トップ集団に入れなかった黒枝は第3グループ、長瀬は第4グループ、六峰はパンクで遅れ第5グループで走る。

ラスト3周回、逃げていた2名が

追走グループに吸収され、9名のトップ集団を形成し終盤戦に入る。

ラスト1周半、カザフスタンがアタック。ウズベキ2名、香港、イランの選手が力及ばず遅れ、カザフの4名とイランが1名トップ集団で走る、4対1の戦いは誰しもがカザフの1~4位を予想していたが、なんと4名のゴール勝負にイランが入っており、接戦となったスプリントを制したのはカザフのLutsenko。2位カザフ、3位にイランが入り、きわどいゴールスプリントであった。

4対1にもかかわらず見事3位に入ったイランの選手は強かった。

日本チームは黒枝の9位が最高位だったが、力の差を痛感したと共に、レース経験不足がレース展開の甘さとして出てしまった。



建築が進む超高層ビル群前での男子ジュニアロードのスタート

4月12日 晴れ

個人ロードレース男子エリート

(宮澤、清水、西谷、鈴木)

男子エリート 85 名が 14 時スタート。スタート直後からハイペースのレース展開となり、横向き強風と砂嵐が吹き荒れる中で集団が一段落となり、5km 地点で 11 名のトップ集団を形成。積極的なレース展開でイラン 4 名、カザフ 3 名、日本 2 名、韓国 1 名、香港 1 名が逃げる。

12km 地点の横風で香港、韓国がトップ集団から脱落。宮澤と清水を含む 9 名のトップ集団が後続集団を引き離す。鈴木と西谷は 1 周終了時点で第 3 集団に取り残され、レースに参加出来ずに終わってしまった。先頭交替も乱れることなく後続の追走集団を大きく引き離れたトップ集団は、ペースを緩めることなく後半戦に入る。

106km 地点でトップ集団に 4 名全員が残ったイランが最初にアタック。追走するカザフ、日本とラスト勝負にアタック合戦が始まる。数で不利な日本はイランとカザフの戦いを見ながら力を温存し、ゴール勝負に賭ける。

109km 地点でイランの Sohrabi が単独アタック。10 秒差になった所でカザフがアタックし日本が追走。そのまま逃げている選手を吸収するかわかれたが、牽制状態になり Sohrabi の逃げを許してしまう。カザフが 3 名で追うが思うように差を詰める事が出来ず、日本も協力。20 秒差まで詰め寄るが、カザフが単独アタック攻撃に出たため、宮澤と清水は先頭交替には入らず力を温存。カザフスタンが再び 3 名の先頭交替で逃げている選手を追うが、吸収することは出来ず。

Sohrabi が 1 分 26 秒差を付けて逃げ切りで優勝。宮澤と清水を含む 8 名の集団は牽制状態でゴール勝負に入る。イラン勢が前を抑えているところを、ラスト 500m で清水がアタックして宮澤がマーク。ラスト 150m から宮澤が満を持してスプリントに入ると、イランがマーク。激戦となったゴールスプリントを制したのは宮澤。清水は 8 位に終わったが、宮澤への好アシストでチームワークの勝利、宮澤の 2 位銀メダルにつながった。

85 名中完走者が 27 名。激しい砂嵐と強風でスタート直後から集団が分裂、厳しいレースであった。

(強化コーチ 高橋 松吉)

男子エリートロード、9名の先頭集団
(左から2番目が清水、一番右が宮澤)

男子エリートロード、西谷・鈴木集団

【競技結果】

第30回アジア自転車競技選手権大会

第17回アジアジュニア自転車競技選手権大会

(ロードレース：2010/4/9-12)

アラブ首長国連邦・シヤルジャ

男子エリート個人タイムトライアル (42.6km)

1	MIZUROV Andrey KAZ	52:59.66
2	ASKARI Hossein IRI	53:20.46
3	WACKER Eugen KGZ	54:31.14
16	清水 都貴 埼玉 BSアンカー	1:01:45.80

女子エリート個人タイムトライアル (28.4km)

1	EUNJU Son KOR	39:48.43
2	萩原麻由子 大阪 CB あさひ	39:58.41
3	CHAPOOKAM Monrudee THA	40:18.18

男子ジュニア個人タイムトライアル (28.4km)

1	SANGHOON Park KOR	37:33.75
2	LUTSENKO Alexey KAZ	37:37.17
3	AL SAMMIRRAIE Saad Ali Yaseen IRQ	39:00.20
8	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	40:32.32

男子エリート個人ロードレース (145.8km)

1	SOHRABI Mehdi IRI	3:27:21
---	-------------------	---------

2	宮澤 崇史 長野 NIPPO	3:28:47
3	NATEGHI Hossein IRI	3:28:47
8	清水 都貴 埼玉 BSアンカー	3:28:53
26	西谷 泰治 愛知 愛三工業	3:46:37
27	鈴木 真理 JPCA シムレーシング	3:46:37

女子エリート個人ロードレース (97.2km)

1	JINA You KOR	2:48:57
2	STEFANSKAYA Natalya KAZ	2:48:57
3	MANEEPAN Jutatip THA	2:48:57
8	萩原麻由子 大阪 CB あさひ	2:48:57
13	豊岡 英子 大阪 パナソニックL.	2:48:57
29	牧瀬 翼 佐賀 MUUR O	2:48:57
37	上野みなみ 青森 鹿屋体育大	2:55:43

男子ジュニア個人ロードレース (113.4km)

1	LUTSENKO Alexey KAZ	2:56:40
2	AYAZBAYEV Maxat KAZ	2:56:40
3	KHADEMI Ali IRI	2:56:40
9	黒枝 士揮 大分 鹿屋体育大	3:05:49
20	六峰 亘 大分	3:15:21
33	一丸 尚伍 大分 法政大学	3:24:57
	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	DNF

●トラックレース・ジュニア

4月14日

まず3km個人追抜競走に、全国大会3連勝中の矢野智哉(岐南工)が
出場。風が強くペースが保ちにくいので、
前半は17秒後半のラップを守る事を
指示した。抑えぎみで走ったが、本来
の力を出し切れず3分42秒126で順
位決定戦に進めず、5位に終わった。

チームスプリントには1走・坂本将
太郎(作新学院)、2走・伊藤裕貴(日
本競輪学校)、3走・木村弘(日本競
輪学校)という、高校生と競輪学校
生との混合チームで挑んだ。2月・3
月の強化合宿で、何度も練習を重ねて

きたメンバー。1走・坂本は練習では
見られなかったほどの走りを見せた。
その後2走・3走と続き、対戦相手の
韓国チームとほぼ同時にゴール。50
秒382で韓国チームにはわずかに0.114
秒およばず、予選2位のイランチーム
には0.028秒足りず3・4位決定戦
に進む事になった。

午後にマレーシアチームと対戦した
3・4位決定戦では、決勝のタイムを
上回る事を目標に挑んだ。優勝の韓
国には及ばなかったが、予選を上回る
走りで49秒322。マレーシアチーム
を下し3位に入った。今大会、日本チ
ーム初のメダル獲得となった。

4月15日

1kmTTに坂本が
出場。風が強く走
路状態も良くない中、自信をもって走
る様に送り出した。序盤から果敢にせ
めて1分12秒060と、タイムは平凡
ながらも他国の選手もタイムが延びず
に3位。坂本はチームスプリントに続
き2個目の銅メダルを獲得した。

ケイリンには木村と伊藤が
出場し、このバンクでは先行が有利な
のでとにかく後手を踏まない様に指
示した。しかし、各選手ともバンクの
特性が判っているため、簡単には先
行をさせてもらえなかった。最悪な
展開にならないために自力で捲り・
追込みながら、2

男子ジュニア1kmTT 3位の坂本

男子ジュニア
スクラッチ3位の一丸

男子ジュニア ポイントレース3位の黒枝



男子ジュニア チームスプリント3位の日本チーム

名ともに2着で2回戦に進出した。2
回戦は、3着まで決勝に進出できる
ため両選手ともに、予選同様、自力で
積極的に展開する事を再確認してス
タート。1組目・伊藤3着、2組目・
木村2着で決勝に進出した。

決勝はマレーシア2名、韓国2名、
日本2名の戦い。序盤から位置取り
の応戦が激しく続き、一瞬のスキを
ついて木村が内側から2番手に入り、
その後ろに伊藤が続いた。韓国選手
ラインに先手をとられ、外から来たマ
レーシア選手にも交わされ木村4着、
伊藤5着でゴール。しかし木村はブ

ルーバンド走行により降格となり、伊
藤4位、木村6位となった。

スクラッチには一丸尚伍(法政大)が
出場。ロード兼任だがスピードのある
選手なので、最後のゴールスプリントに
持ち込む様に指示。レース中盤数人の
選手が逃げを試みるが、上手く潰して
集団のまま終盤に。残り数周でウズベ
キスタンの選手が飛び出し、逃げが
決まる。その後、ホンコンチャイナ
の選手も飛び出す。残り1周で一丸
も全開で追いかけるが僅か届かず3
位に終わった。

4月16日

スプリントにはケイリンと同じく木

村と伊藤が
出場。予選で良いタイムを出さないと
本戦に入ってから戦いが厳しくなる
ので、エリート選手から教えてもら
ったライン取りをイメージして全力
でトライする様にアドバイス。結
果、木村が11秒497の2位、伊藤が
11秒844の6位で予選を通過した。

1/8決勝では2名とも快勝し1/4
決勝へ。この対戦から3回戦制にな
り、木村は2本先取し1/2決勝へ。
伊藤は1本目を取られ2本目取り返
したが残念ながら敗戦し、5~8位
決定戦進出となった。

1/2決勝の木村は韓国選手と対戦。



男子ジュニア個人追抜競走5位の矢野



男子ジュニアケイリン4位の伊藤(奥)と6位の木村(手前)

ケイリン同様、主導権を取るレースをする様に指示したが、相手選手のペースにはまり2本先取され、3・4位決定戦へ進むこととなる。

この後、予定されていたスプリント決定戦は、悪天候(強風・砂嵐)のため、翌日に持ち越しになった。

4月17日

スプリント5～8位決定戦はイラン2名、マレーシア、伊藤の4名で対戦。イラン選手がペースを上げながら主導権をとり、伊藤は後方に置かれたが一瞬の隙を付いてインコースから先頭に出てそのままゴール。5位が決定した。

3・4位決定戦の木村はマレーシア選手との対戦。1本目は、やはり主導権を奪われ先行され敗戦。2本目は、相手選手を前に出さない様に主導権をとり逃げ切った。メダルの懸かった3本目は、どちらも主導権をとるためにペースを上げ、結局マレーシアの選手が先行し逃げ切り、木村の4位が決定した。マレーシア選手はバンクにキスをしながら喜んでいたのが印象的だった。

ロードレースで9位という不本意な結果に悔しがっていた黒枝士揮(鹿屋体育大学)は、ポイントレースに出場。スピード・持久力共に兼ね備えた選手。レースは12名で行われ、黒枝は序盤では様子を伺い、後方で待機しながらポイントを取る。中盤に入り、持ち前のレース感から一気に飛び出し数名の選手と逃げ集団が形成された。黒枝はポイントを奪いながら集団をラップし、ラップポイントをゲッ

トした。終盤、やや疲れが見えて来た頃に韓国選手が飛び出し、一人ラップを成功させた。その後、ウズベキスタン選手も一人飛び出しそのままゴール。結果、黒枝は+2ラップ55点で3位になった。

【総括】

昨年のインドネシア大会に続き、JCFジュニア強化支援スタッフとして同行した今大会には、サウジアラビア、ヨルダン、カタール、イラクなど普段は参加を控えていた多くの国が参加。UAEは非常に暑く、乾燥している(気温50℃、湿度17%位)。開催会場となった競技場は出来たばかりで、風が強く吹き、走路に穴が開いてしまうハブニングや砂嵐が来て競技が中止にもなった。タイムテーブルも2度3度と変更され、選手のモチベーションが保てないままの大会となった。

エリート同様にジュニアの世界も韓国・マレーシア・イラン・カザフスタンなどが、確実に力を付けて来ている。日本の選手・指導者もなんらかの方法をとらないと、アジアからも取り残されてしまう感が残った。また、韓国、マレーシア、中国、タイ、香港、台湾などのチームには、アメリカやオーストラリアなどの外国人スタッフが帯同し、強化を進めていた。また、サポートの面では機材・環境など、さまざまな所で行き届いているので、選手は意識を高めて行くことが望まれる。

今大会、トラックのジュニアでは銅メダルを4個獲得した。前回大会では同数ながら、金1(ポイントレース)、

銀2(スクラッチ、チームスプリント)、銅1(3km個人追抜)というまずまずの成績を取っていた。今大会のメンバーもバンク状態が芳しくない中で全力を尽くしたが、さらなる底上げが必要になってきている。

(JCFジュニア強化支援スタッフ 山本宏恒)

【競技結果】

第17回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会
(トラック:2010/4/14-17 777'首長国連邦・ツバルギヤ)

男子ジュニアスプリント

- 1 KIM Jung Yeol KOR
- 2 HAN Jaeho KOR
- 3 ZAID Mohd Fattah Amri MAS
- 4 木村 弘 青森 日本競輪学校
- 5 伊藤 裕貴 三重 日本競輪学校

男子ジュニア1kmタイムトライアル

- 1 KIM Min Jun KOR 1:07.728
- 2 MORSHEDLOO Ali IRI 1:10.231
- 3 坂本将太郎 栃木 作新学院 1:12.060

男子ジュニアケイリン

- 1 HAN Jaeho KOR
- 2 KIM Min Jun KOR
- 3 AMRAN Muhd Arly Qhairant MAS
- 4 伊藤 裕貴 三重 日本競輪学校
- 6 木村 弘 青森 日本競輪学校

男子ジュニア3km個人追抜競走

- 1 KIM Hong Ki KOR 3:40.218
- 2 OMIRZAKOV Dias KAZ 3:47.663
- 3 PENG Yuan Tan TPE 3:43.939
- 5 矢野 智哉 岐阜 岐南工高 3:42.126

男子ジュニアスクラッチ(10km)

- 1 GUMEROV Timur UZB
- 2 CHEUNG Fu Shiu HKG
- 3 一丸 尚伍 大分 法政大学

男子ジュニアポイントレース(20km)

- 1 KIM Hong Ki KOR 78p
- 2 DRONIN Roman UZB 61p
- 3 黒枝 士揮 大分 鹿屋体育大学 55p

男子ジュニアチームスプリント

- 1 Korea 48.567
- 2 Iran 50.267
- 3 日本 伊藤・木村・坂本 49.322

●トラックレース・エリート

[4月14日]

トラックレースは個人追抜競走から始まった。競技場は屋外コンクリートの250mであるが、2センター付近で走路が波をうっており選手は走りにくい。またアラブ特有の風が吹き、バックストレートは強い向かい風となる。気象条件は40℃を超える日が続き、雨と湿度が少ないのが特徴である。

女子エリートは和田見里見(中京大大学院)が出場。スタートから安定したラップを刻むが、スピードが上がり切れず5位。男子は佐々木龍(早稲田大学)も5位。競技スケジュールの最近の傾向として、多くの種目が1日で予選から順位決定戦まで行われる。国内で開催される大会も、この側面からの強化策が必要であろう。

続いて500mタイムトライアル。オリンピック種目ではないが、大陸選手権や世界選手権では採用されており、現在、世界のトップは33秒台である。前田佳代乃(鹿屋体大)は本年からエリートカテゴリーとなり、初挑戦である。結果は5位。もはや中国・韓国・香港は総合力で日本を上回っている気がした。外国人コーチを採用し、ナショナルチームとして年間の活動をしている。オリンピック出場に賭けた、もはや形を変えた国と国との戦いである。

続いてのチームスプリントは、アテネ五輪での銀メダル獲得種目。成田和也(JPCA 福島)、渡邊一成(JPCA 福島)、新田祐大(JPCA 福島)は日本トップクラスの競輪選手である。本業である競輪を欠場しての出場は、オリンピック枠を獲得するといった意欲の現れである。気心知れた3名はチームワーク良く準備を終えた。予選第2組のホームスタートで、対するバックスタートはインドである。成田の絶妙なスタートに渡邊、新田とつなぐ。バック向かい風も押し切り、47秒131でゴール。タイムとしては決して良くないが、ライバルの中国・韓国を押さえ1位で通過した。2位通過との中国とは約3時間後の対決である。決勝は同メンバーで臨み、両チームともタイムを上げたが日本46秒480、中国46秒079と惜敗し、銀メダルの獲得となった。決勝までの間、男子ポイントレース決勝が行われ、元砂勇雪(鹿屋体育大)が出場。昨年の世界ジュニア選でメダルをとり、ジュニア時代は国内中長距離種目を総なめにした有望選手である。1・5・6回目のポイント周回でポイントをとるが、イラン・香港・韓国選手が3lap、元砂は1lapしたが得点の差はつまず4位に甘んじてしまった。



女子エリート ポイントレース1位の萩原



男子エリート マディソン 3位の佐々木(右)と元砂



男子エリート スプリント 3位の新田

夕方から行われた女子ポイントレースでは、ロードレースでも活躍した萩原麻由子(大阪・サイクルベースあさひ)が出場した。萩原は終始積極的なレース運びで1回目と3回目に5点ポイントを獲得、さらに集団を2lapした。高温の中でのレースは過酷であり、途中リタイア者も出るほどである。成績は51ポイントを獲得し、2位と1点差で金メダルに輝いた。セレモニーで初の君が代が会場に流れた。

女子スプリント予選では前田、石井共に1/8決勝へ進む。前田は韓国選手と対戦し敗退。石井はチャイニーズ台北の選手に主導権を取ったレース運びから先行逃げ切り、1/4決勝へ進出したが、予選1位通過の中国選手に敗れ5～8位決定戦も健闘したが8位に終わった。

[4月15日]

朝一番のレースは団体追抜競走か

らはじまった。女子ジュニアも予定されていたがエントリー国はなく、男子ジュニアからである。本年は男子ジュニアのエントリーをしておらず、更に女子ジュニアは派遣そのものを見送った。トラック中長距離種目はアジアにおいても差が広がりつつあり課題も多い。将来的に女子団体追抜やマディソンを強化するためには、ジュニア・カテゴリーからの国内レースへの導入は避けて通れないか。特にロンドン五輪から採用される女子種目の増加に、早急に対応する必要性を強く感じた。女子団体追抜メンバーは萩原・和田見・上野みなみ(鹿屋体育大学)といった中距離メンバーが参加。不慣れな先頭交代も克服し、3分58秒871で5位。しかしながら本年行われた世界選手権では、3分25秒を切らないとメダル圏内に届かない。

男子エリートは大学生の窪木一茂、

高橋翔太(共に日本大学) 佐々木、元砂の各選手である。4分40秒685の6位。吉井トラック中距離コーチがラップタイムを指示するが、向かい風の中思うようにタイムが伸びない。優勝の韓国チームは4分26秒台であり、このタイムを年度またぎの4月中旬に出すには、早期のメンバー決定と対策が必要である。直前合宿も計画されたが、メンバー全員の都合を合わせる事が難しかった。

1km タイムトライアルは新田祐大(JPCA 福島)が1分06秒656で3位、3個目のメダルを獲得した。新田はコンスタントに03秒台を記録し、ギアを52×15でトライしたが後半、若干失速気味でゴール。優勝の中国選手は01秒の持ちタイム選手であり、その選手が05秒台であった事を考えると、新田の記録は評価できるのではないかと。



男子エリート 1km タイムトライアル 3位の新田

女子エリート チームスプリント 5位の前田(左)と石井

続いて男子ケイリン。北京五輪で永井が銅メダルに輝いた事は記憶に新しい。出場した渡邊一成(JPCA 福島)は余裕で1回戦、2回戦を先行逃げ切り、決勝へコマを進めた。成田和也(JPCA 福島)は1回戦、KANG Dong Jin(韓国)の進路妨害があり、繰り上がり2回戦へ。同組で渡邊と走り、渡邊が先行する中、最終5番手から追い上げ3着で決勝へ進んだ。決勝はスタートを成田が取り、残り2周回ホームで渡邊が先頭に出る。中国選手が捲りを放つが、合わせて渡邊が先行し逃げ切った。成田は2着に食い込んだ。待望の2個目の金・銀メダルを手にした。渡邊は昨年に続き、ケイリン2連覇を達成した。

海外の選手も日本の競輪を研究しているようであった。最近のレース展開はデルニバイク退避後からの先行争いのためのダッシュ力、後方をけん制しての速いペースでの先行、更にゴール前のスピードが要求される。男子スクラッチは窪木が出場、集団の中から韓国・タイ・カザフの3名がLAPをしてしまう展開で6位であった。

【4月16日】

本日は女子チームスプリントから始まった。2名で競技場を2周である。前田と石井寛子(スーパーKアスリート・ラボ)が出場した。ダッシュ力のある前田に石井が付いていくが5位に終わる。上位国は中国・チャイニーズ台北・香港・韓国である。

続いて男子スプリント予選が行われ、渡邊と新田が出場した。渡邊は11秒266で9位通過、新田は10秒847を出し2位で通過した。レースは主導権をとった先行選手が徐々にスピードをあげるパターンが多く、250mバンクの特性上同等の力ではバックから捲ることは難しい。渡邊は1/8決勝で勝ち、1/4決勝で敗退してしまった。新田は順調に勝ち上がり、1/2決勝で韓国選手との対戦。1本目先取された2本目、最終周回バックストレートで妨害行為にあってしまう。とっさの判断で班目監督が事情を説明に行く。長時間審議の結果、韓国選手が降格となり3回戦へ。3回戦では惜敗してしまい、翌日の3~4位決定戦で中国選手をストレートで下し、銅メダル。

渡邊は5~8位決定戦で2名の選手が辞退をする中、5位であった。女子スクラッチに予定していた上野は本日レース前の練習で落車をしてしまい、ギリギリまで出場を考えるが痛みが消えず、残念ながらDNSであった。午後からは男子オムニウムに盛一大

(愛三工業)が出場した。女子は石井寛子(スーパーK)が出場する。男女オムニウムもロンドン五輪から採用される種目である。種目形態が二転三転し、200mハロンは1周のフラインググループとなり、スクラッチがエリミネーションへ変更された。更に午後からの強い砂嵐により、石井のフラインググループが終わったところで中断された。時間を見ての再開であったが、本日の競技は打ち切られてしまった。

【4月17日】

いよいよレース最終日を迎えた。マディソン男子エリートは佐々木・元砂でチームを組み、8ポイントをとるが香港・韓国チームにLAPされてしまい3位銅メダル。オムニウムは一人で複数種目を一日でこなす、大変なスタミナを要求されるレースである。短距離から長距離まで満遍なく走れ、各種

目終了時の順位が次の作戦にも影響をする。石井はフラインググループ5位、IP8位、エリミネーション6位、ポイントレースでは2位と健闘したが総合7位で終わった。期待されている盛はフラインググループ4位、IP7位、エリミネーション2位、ポイントレース3位と健闘し銀メダルを獲得した。男子優勝選手はCHO Ho Sung(韓国)で3種目の1位を取り圧勝であった。

振り返ってみるとアジア選が毎年4月に開催が固定されるならば、選手選考から強化対策までをこの時期に、充分に対応させる必要性を感じる。全カテゴリー、スタッフを含む選手団は約40名となり、移動、荷物、食事など大変であるが、オリンピックまであと2年余りである。関係スタッフ一丸となって準備を進めたい。

(JCF強化コーチ 折本 裕樹)

【競技結果】

第30回アジア自転車競技選手権大会 (トラック:2010/4/14-17 アジア首長国連邦・ジャルジーヤ)

男子エリート スプリント

- 1 ZHANG Miao CHN
- 2 KANG Dong Jin KOR
- 3 新田 祐大 JPCA 福島
- 5 渡邊 一成 JPCA 福島

男子エリート 1km タイムトライアル

- 1 ZHANG Miao CHN 1:05.277
- 2 MOHD SUFIAN Mohd Hafiz MAS 1:06.562
- 3 新田 祐大 JPCA 福島 1:06.656

男子エリート ケイリン

- 1 渡邊 一成 JPCA 福島
- 2 成田 和也 JPCA 福島
- 3 MOHD SUFIAN Mohd Hafiz MAS

男子エリート 4km 個人追抜競走

- 1 JANG Sun Jae KOR 4:44.500
- 2 FENG Chun Kai TPE 4:52.365
- 3 ASGARI Hossein IRI 4:50.467
- 6 佐々木 龍 神奈川 早稲田大 5:01.024

男子エリート スクラッチ (15km)

- 1 CHOE Hieong Min KOR
- 2 SLADKOV Evgeniy KAZ
- 3 BOONRATANATHANAKORN Thudakit THAI
- 6 窪木 一茂 福島 日本大学 -1lap

男子エリート ポイントレース (30km)

- 1 CHO Ho Sung KOR 91p
- 2 ZARGARI Amir IRI 88p
- 3 KWOK Ho Ting HKG 86p
- 4 元砂 勇雪 奈良 鹿屋体育大学 37p

男子エリート 6人組

- 1 CHO Ho Sung KOR 5p
- 2 盛 一大 愛知 愛三工業 16p
- 3 WU Po Hung TPE 19p

男子エリート マディソン (30km)

- 1 Korea 26p
- 2 Hong Kong China 22p
- 3 日本 佐々木・元砂 (-1lap) 8p

男子エリート チームスプリント

- 1 China 46.079

- 2 日本 渡邊・新田・成田 46.480
- 3 Iran 47.363

男子エリート 4 km 団体追抜競走

- 1 Korea 4:26.111
- 2 China 4:34.856
- 3 Hong Kong China 4:30.816
- 7 日本 佐々木・元砂・窪木・高橋 4:40.685

女子エリート 500m タイムトライアル

- 1 GUO Chuang CHN 35.693
- 2 LEE Wai Sze HKG 36.098
- 3 KIM Wongyeong KOR 36.794
- 5 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 36.954

女子エリート スプリント

- 1 GUO Chuang CHN
- 2 GONG Jinjie CHN
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 8 石井 寛子 茨城・スーパーKアスリートラボ

女子エリート 3km 個人追抜競走

- 1 JIANG Fan CHN 3:51.432
- 2 NA Ahreum KOR 3:55.750
- 3 I Fang Ju TPE 4:08.364
- 5 和田見里美 鳥取 中京大学院 4:12.096

女子エリート ポイントレース (20km)

- 1 萩原麻由子 大阪 サイクル・スアサひ 51p
- 2 WONG Wan Yiu HKG 50p
- 3 TANG Kerong CHN 30p

女子エリート 6人組

- 1 NA Ahreum KOR 12p
- 2 DIAO Xiaojuan HKG 12p
- 3 HSIAO Mei Yu TPE 14p
- 7 石井 寛子 茨城・スーパーKアスリートL 21p

女子エリート チームスプリント

- 1 China 34.707
- 2 Chinese Taipei 36.559
- 3 Hong Kong China 36.274
- 5 日本 石井・前田 37.445

女子エリート 3km 団体追抜競走

- 1 China 3:41.530
- 2 Korea 3:45.733
- 3 Chinese Taipei 3:52.373
- 5 日本 萩原・和田見・上野 3:58.871

第 26 回全日本 BMX 選手権大会

秩父滝沢サイクルパーク BMXトラック

KEIRIN 00

この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

左が優勝の三瓶



筆者が自転車界に身を置くようになって22年、BMXのレースを生で観戦するのは今回が初めてであるが、いやまことに不見識ですみません、これが想像以上に面白いものであった。

まず競技進行のテンポが良い。4本のそれぞれ特徴の異なるストレートを、3つのバームと呼ばれるカントのついたアスファルト舗装のカーブで繋いだコースは全長が345m。5mの高さにあるスタート台のゲートが下がりスロープを一気に駆け下りた選手は、エリートクラスで36秒程度、一番年少のBOYS5～6歳クラスでも1分を切るタイムでゴールする。予選は27組がそれぞれ3ヒートあるので合わせて81レース、それが軽快なMCとともにわずか2時間で行われるのだ。

今回の開催場所は、昨年の11月にオープンしたばかりの秩父滝沢サイクルパークBMXトラック。秩父市の中心地から彩甲斐街道(国道140号線)を山梨方面へ、車で40分ほどの距離にある。滝沢ダムを望む高台に位置し、併設するレイクビューハウスからの眺めもなかなかのものだ。コース造成はUCIのトラックコーディネイターにより監修され、関係者によれば国内の他のコースに比べ微妙に難しく、より高度なテクニックが必要とされているとのことだ。

個人的な見立てではあるが、このコースの場合第3ストレートのリズム

セクションと呼ばれる小さいコブの続くセクションの通過テクニックと、続く第3バームのライン取りが勝敗の決め手になるように思われた。肘と膝の柔らかな動きが要求され、運動系としては明確な乳酸系の無酸素運動であり、乳酸耐性の低い選手には少々厳しい種目だろう。実際ゴール間際の逆転というシーンが、幾度となく見られた。

さて、決勝18レースのトリを飾るのはもちろんエリート男子クラス。スタート良く飛び出し最初のジャンプから第1バームをトップでクリアしたのは、今大会優勝候補の最右翼に位置する三瓶将廣で、吉村樹希敢(じゅきあ)が追う展開。第2バームも三瓶が先頭をキープしたが、ここからのリズムセクションで吉村が三瓶との差を一気に詰めて一瞬前に出る。だが三瓶は続く第3バームで再び吉村を抜き返してそのままゴール。三瓶は昨年に続き全日本2連覇、吉村が2位で北京オリンピック代表の阪本草史が3位に入った。

そう、この競技はオリンピックの正式種目でもあるのだ。世界の壁はまだまだ

厚く高いと思うが、この競技の一層の発展を願わずにはいられない。そのためにはなんといっても選手層の充実と拡大が必要であろう。

実はエントリー数が多いのは将来のオリンピック候補である9歳から12歳くらいまでの小学生の競技者で、年齢が上がっていくにつれてエントリー数が減っているというのが現状だ。親の協力がかなり無いと競技を続けるのも困難であろうと思われるが、将来有望なこれらの競技者をエリートクラスまで繋げていくというのが今後の重要な課題になる。

実際今回エリート男子クラスで2位となった吉村はまだ17歳で、本来はジュニア男子の選手であるのだが、今回はエントリー人数が規定に達せずジュニア男子クラスが成立していない。だが今回は2年後のロンドン、またはその次のブラジルに向けて有望な選手が出現したということで、彼を含むジュニア勢の今後の活躍に期待したい。(村田 隆宣)

【競技結果】

第26回全日本BMX選手権大会
(2010/4/25 埼玉・秩父)

男子17+

- 1 三瓶 将廣 神奈川
- 2 吉村樹希敢 大阪
- 3 阪本 章史 大阪
- 4 高山 一成 埼玉
- 5 佐伯 進 静岡
- 6 草間 亮介 新潟
- 7 松下 翼 神奈川
- 8 長迫 吉拓 岡山



第10回チャレンジ・ザ・オリンピック

200mFTT で好記録続出!



4月25日(日)、場所を従来の日本CSC250mトラックから、群馬県のグリーンドーム前橋に代え第10回チャレンジ・ザ・オリンピックが開催された。

屋内バンクのため、今までのように強風の心配もなく、特に200mFTTでは好記録が続出した。

この日の結果を元に2010年度の強化指定選手・強化育成選手が発表される。(P.13を参照ください)

【記録結果】

第10回チャレンジ・ザ・オリンピック
(2010/4/25 群馬・グリーンドーム前橋)

200m フライング・タイムトライアル - 男子

- | | | | | |
|---|-------|----|---|--------|
| 1 | 北津留 翼 | 福岡 | E | 10.042 |
| 2 | 深谷 知広 | 愛知 | U | 10.099 |
| 3 | 永井 清史 | 岐阜 | E | 10.177 |

- | | | | | |
|---|-------|----|---|--------|
| 4 | 矢口啓一郎 | 群馬 | E | 10.297 |
| 5 | 雨谷 一樹 | 栃木 | U | 10.418 |
| 6 | 坂本 亮馬 | 福岡 | E | 10.423 |

200m フライング・タイムトライアル - 女子

- | | | | | |
|---|-------|------------|---|--------|
| 1 | 石井 寛子 | スーパ-カアスリート | E | 11.782 |
| 2 | 沼部早紀子 | 日本CSC | E | 12.018 |
| 3 | 前田佳代乃 | 鹿屋体育大学 | E | 12.067 |
| 4 | 篠崎 新純 | セサイクル | E | 12.073 |
| 5 | 白井美早子 | - | E | 12.330 |
| 6 | 近藤 美子 | 鹿屋体育大学 | E | 12.409 |

250m タイムトライアル - 男子

- | | | | | |
|---|-------|-----|---|--------|
| 1 | 柴崎 淳 | 三重 | E | 18.482 |
| 2 | 雨谷 一樹 | 栃木 | U | 18.517 |
| 3 | 坂本 英一 | 栃木 | E | 18.677 |
| 4 | 武田 憲祐 | 神奈川 | E | 18.688 |
| 5 | 北津留 翼 | 福岡 | E | 18.705 |
| 6 | 佐藤 友和 | 岩手 | E | 18.811 |

500m タイムトライアル - 女子

- | | | | | |
|---|-------|--------|---|--------|
| 1 | 前田佳代乃 | 鹿屋体育大学 | E | 35.670 |
|---|-------|--------|---|--------|

- | | | | | |
|---|-------|------------|---|--------|
| 2 | 石井 寛子 | スーパ-カアスリート | E | 37.356 |
| 3 | 沼部早紀子 | 日本CSC | E | 38.173 |
| 4 | 篠崎 新純 | セサイクル | E | 38.501 |
| 5 | 白井美早子 | - | E | 38.524 |
| 6 | 野村くるみ | 北陸大学 | E | 38.813 |

1km タイムトライアル - 男子

- | | | | | |
|---|-------|----|---|----------|
| 1 | 浅井 康太 | 三重 | E | 1:04.863 |
| 2 | 脇本 雄太 | 福井 | U | 1:05.357 |
| 3 | 才迫 勇馬 | 広島 | U | 1:05.696 |
| 4 | 松田 優一 | 茨城 | E | 1:05.713 |
| 5 | 田中 晴基 | 千葉 | E | 1:06.040 |
| 6 | 矢口啓一郎 | 群馬 | E | 1:06.410 |

2km タイムトライアル - 女子

- | | | | | |
|---|-------|--------|---|----------|
| 1 | 岩田 知夏 | 北桑田高校 | J | 2:50.496 |
| 2 | 武田 和佳 | - | J | 2:54.178 |
| 3 | 浅田 聖奈 | 豊田高校 | Y | 2:59.429 |
| 4 | 浅田 愛理 | 高橋中学校 | Y | 3:03.642 |
| 5 | 黒田 彩夏 | 江井島中学校 | Y | 3:14.203 |

3km タイムトライアル - 男子

- | | | | | |
|---|-------|--------|---|----------|
| 1 | 和田 力 | 日本大学 | J | 3:39.516 |
| 2 | 高宮 佑介 | 東北高校 | J | 3:41.005 |
| 3 | 矢野 智哉 | 岐南工業高校 | J | 3:43.032 |
| 4 | 高士 拓也 | 朝明高校 | Y | 3:45.620 |
| 5 | 石川 琢磨 | 東北高校 | J | 3:54.791 |

3km タイムトライアル - 女子

- | | | | | |
|---|-------|------------|---|----------|
| 1 | 田中 まい | 日本体育大学 | E | 4:02.390 |
| 2 | 豊岡 英子 | - | E | 4:02.591 |
| 3 | 井上 玲美 | チームフォーカス | E | 4:04.483 |
| 4 | 石井 寛子 | スーパ-カアスリート | E | 4:05.686 |
| 5 | 上野みなみ | 鹿屋体育大学 | E | 4:05.996 |
| 6 | 濱田 真子 | - | E | 4:09.562 |

4km タイムトライアル - 男子

- | | | | | |
|---|-------|--------|---|----------|
| 1 | 佐々木 龍 | 早稲田大学 | U | 4:48.233 |
| 2 | 川西 貴之 | 日本競輪学校 | E | 4:50.888 |
| 3 | 窪木 一茂 | 日本大学 | U | 4:52.560 |
| 4 | 朝倉 佳弘 | 東京 | E | 4:53.311 |
| 5 | 角 令央奈 | 兵庫 | E | 4:53.768 |
| 6 | 元砂 勇雪 | 鹿屋体育大学 | U | 4:53.877 |

日本航空

Dream Skyward. JAL

世界の空でお逢いしましょう。


www.jal.co.jp

ツアー・オブ・タイランド 2010

内間 第5ステージ優勝!



第1ステージ(プロローグ) 5.6km 個人タイムトライアル

日本チームは全体的にタイムが伸びず、個人総合成績争いで初日から大きく後退した。機材使用制限等の情報不足による機材ハンデもあるが、気持ちの面で好タイムを狙う気迫が感じられなかった。

第2ステージ 177.5km

37℃の高温の中のレースは、リーダーチーム(ジェリーベリー)が主導権を取り、序盤から3名の選手を逃がし射程距離でコントロールを続けた。

後半は風向きも変わり攻撃もあったが、リーダーは首位を守りゴールした。

ステージ優勝は、大集団スプリントより早めにスパートした David McCANN が、わずかに逃げ切った。

日本チームは昨日よりも体調が整い、レース展開に参加し始めたが結果には結びつかず、明日以降の攻撃への参加に備える。

第3ステージ 172km

リーダーチーム(ジェリーベリー)のレースコントロール下、6名の逃げが許される。チームからは内間康平が逃げに乗り、ステージ入賞に目標を絞り展開する。

内間はラスト20kmでアタックし、グループを3名に絞り逃げ切りを図るが、惜しくもゴール前2kmで集団に捕えられた。集団はゴールスプリントに参加する態勢が整わずそのままゴール。

健闘の内間に対し、後続に残った選手の取り組みの甘さが印象に残った。

第4ステージ 207km

今大会で最長のステージ。昨日よりアタックが激しく繰り返され、序盤に9名が抜け出し今日も内間が乗る。

先頭グループは2~3分のタイム差でコントロールされ、後半まで進む。

9名はラスト20kmまで態勢を崩さずに進むが、メイン集団の追い上げも始まったラスト20kmで内間が単独でアタックレゴールを目指す。

他の8名はすんなり集団に吸収され内間はラスト10kmで1分25秒のリードを持ったが、猛追する集団にラスト2kmで捕えられ集団スプリントになる。

チームは小森が吉田を導きスプリントに入り8位でゴール。内間の走りは昨日よりも良くなっている。

第5ステージ 186.3km

第3・第4ステージとはほぼ同じ展開でチャンスを逃したが、第5ステージも序盤から7名の逃げグループが先行を許され、今日も好調の内間が乗る。

前の2ステージとの違いは先頭メンバーの協力体制と、後続グループでリーダーチームを助けるチームがないこと。

レースは後半、3分の差を詰めるべくペースアップと同時に、先行グループから3名が抜け出しペースを上げた。集団はゴールまでに先行グループ脱落選手を吸収するが、内間を含む3名には届かず逃げ切りを許す。

3名のゴールスプリントは2番手でスプリントに入った内間が優勝し、微差で総合リーダーにも立った。勝因は前2ステージの経験で得たペース配分と、逃げメンバーに恵まれたこと。スプリントを制したのは冷静な判断力。



第6ステージ 190km

JAPAN チームは内間の個人総合を守るべく、リーダーチームとしてスタート。序盤から各チームの猛攻撃にあい大苦戦を強いられ、内間自らアタックの追走に入らざるを得ない場面もあった。

中盤からは数名の逃げを容認し、集団のコントロールに入るが終盤、逆転狙いの攻撃に潰され、それまで脚を使ってきた内間も11名の先行を見送る結果となった。これにより内間は個人総合7位でレースを終えた。



【全体コメント】

今回は高橋松吉コーチがアジア選手権参加のため、代役を預かった。日本チームの参加目的は、世界選手権U23参加枠獲得のためのアジアツアーU23ポイントの獲得で、成績目標では不得意なプロローグの成績が個人総合成績に大きく影響することを予測し、現実的にポイントの獲得出来る各ステージでの3位以内入賞に置いた。

また小森をキャプテンとし選手の自発的な情報収集、レース分析、組み立てによるレースを実践することも課題とした。

今回の参加選手は経験が浅く、コンディションにもバラツキがありチーム力としては低かったが、課題への取り組みと修得の速さで、動きも結果も毎ステージ良い方向に向かった。

内間はツールド台湾でも内容の濃いレースを続けていた成果として、チーム内でも突出したコンディションの高さを持ち、連日アタックに乗り自らの取り組みで成功を収めた。

収穫はUCIポイント18点と、1ステージのみではあるが5名がリーダーチームの取り組みをはじめとする、貴重な実戦経験による選手の成長。課題は個々で異なるが、全体的にはU23カテゴリー1年目からの実戦機会の確保と、日常のトレーニング(各所属に帰ってから)であると感じた。

蛇足ながら大学生の自転車の整備状況が悪く、レース時には整備、洗車した状態で合流させることが必要。

(浅田 顕)

【競技結果】

77-・78-・79-・80- 2010
(200/4/16 外)

個人総合成績

1	REIJNEN Kiel	JBC	22:23:15
2	NICHOLAS White	MCT	22:23:33
3	LOCKE Deon	CKT	22:23:34
7	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	22:23:52
47	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	22:25:37
64	小森 亮平	広島 Vendee U	22:29:56
69	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	22:32:10
78	越海 誠一	大分 日本大学	22:40:05

団体総合成績

1	Medscheme Cycling Team	67:13:03
2	CKT TMIT-Champion Sys.	67:13:11
3	Kelly Benefit Strategies	67:13:18
15	日本ナショナルチーム	67:18:48

山岳賞

1	野寺 秀徳	JPN SMN	5p
---	-------	---------	----

ポイント賞

1	REIJNEN Kiel	JBC	48p
---	--------------	-----	-----

第1ステージ (5.6km)

1	REIJNEN Kiel	JBC	6:42.32
2	FRIEDMAN Michael	JBC	6:43.84
3	ROUTLEY Will	JBC	6:49.47

38	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	7:19.94
47	越海 誠一	大分 日本大学	7:23.24
64	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	7:29.52
74	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	7:32.49
112	小森 亮平	広島 Vendee U	7:51.04

第2ステージ (177.5km)

1	McCANN David	GNT	4:07:51
2	LIPHONGYU Nawuti	THA	4:07:51
3	MANAN Anuar	MAS	4:07:51
26	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	4:07:51
57	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	4:07:51
59	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	4:07:51
68	小森 亮平	広島 Vendee U	4:07:51
116	越海 誠一	大分 日本大学	4:14:32

第3ステージ (173.1km)

1	MANAN Anuar	MAS	4:02:51
2	MAI Nguyen Hung	VIE	4:02:51
3	KIRSIPUU Jaan	CKT	4:02:51
37	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	4:02:51
43	小森 亮平	広島 Vendee U	4:02:51
79	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	4:02:51
87	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	4:02:51
103	越海 誠一	大分 日本大学	4:03:34

第4ステージ (207.3km)

1	MANAN Anuar	MAS	5:04:39
2	REIJNEN Kiel	JBC	5:04:39

3	SHALAMOV Vadim	KAZ	5:04:39
8	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	5:04:39
25	小森 亮平	広島 Vendee U	5:04:39
62	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	5:04:39
77	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	5:04:39
83	越海 誠一	大分 日本大学	5:04:39

第5ステージ (186.3km)

1	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	4:30:28
2	HALL Bradeley	MPC	4:30:28
3	DYMOVSKIKH Alexandr	KAZ	4:30:28
23	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	4:31:18
27	小森 亮平	広島 Vendee U	4:31:18
57	越海 誠一	大分 日本大学	4:31:18
71	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	4:31:18

第6ステージ (190.3km)

1	PARNO	CCC	4:30:02
2	Neil Shirley	KBS	4:30:02
3	LOCKE Deon	CKT	4:30:02
52	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	4:30:58
67	吉田 隼人	奈良 鹿屋体育大	4:31:06
72	小森 亮平	広島 Vendee U	4:35:26
75	笠原 恭輔	埼玉 中央大学	4:38:02
78	越海 誠一	大分 日本大学	4:38:39

平成 22 年 5 月 6 日

2010 年 日本自転車競技連盟 強化指定選手

《トラック短距離 エリート》

■ 男子 強化指定選手 7名

矢口啓一郎 (JPCA・JPCU 群馬) 成田 和也 (JPCA・JPCU 福島) 渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)
永井 清史 (JPCA・JPCU 岐阜) 新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島) 北津留 翼 (JPCA・JPCU 福岡)
深谷 知広 (JPCA・JPCU 愛知)

□ 男子 強化育成選手 3名

浅井 康太 (JPCA・JPCU 三重) 柴崎 淳 (JPCA・JPCU 三重) 雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木)

● 女子 強化指定選手 1名

前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)

○ 女子 強化育成選手 2名

石井 寛子 (茨城・スーパーKアスリートラボ) 沼部早紀子 (静岡・マッペローチェ ARIAKE)

《トラック中距離 エリート》

■ 男子 強化指定選手 1名

盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)

□ 男子 強化育成選手 7名

脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井) 朝倉 佳弘 (JPCA・JPCU 東京) 角 令央奈 (兵庫・JPCU 兵庫)
川西 貴之 (岐阜・日本競輪学校) 窪木 一茂 (福島・日本大学) 佐々木 龍 (神奈川・早稲田大学)
元砂 勇雪 (奈良・鹿屋体育大学)

● 女子 強化指定選手 1名

萩原麻由子 (大阪・サイクルベースあさひレーシング)

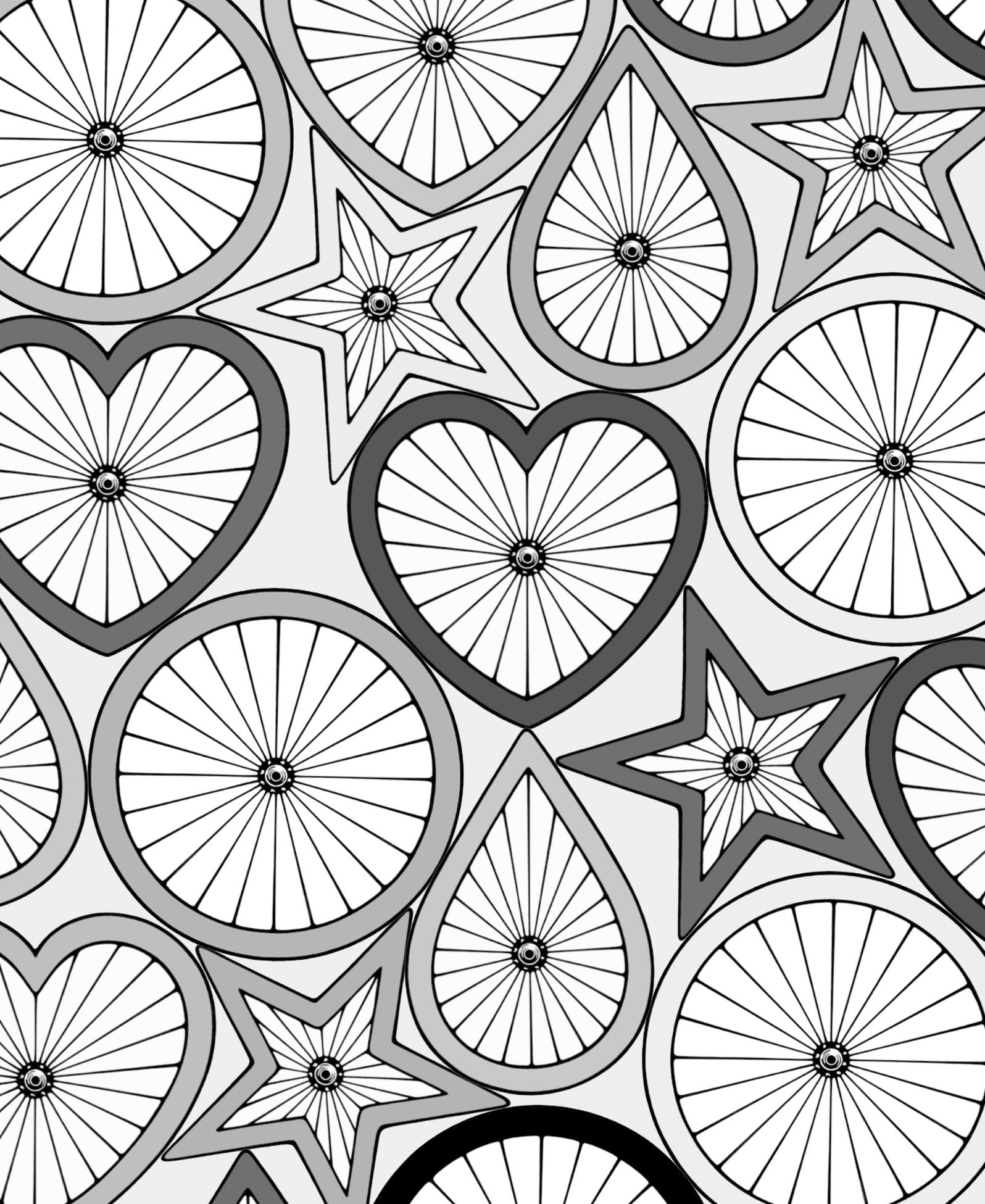
○ 女子 強化育成選手 4名

豊岡 英子 (大阪・パナソニックレディース) 田中 まい (千葉・日本体育大学)
井上 玲美 (東京・チームフォーカス) 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

2010年度主要事業予定

期 日	大 会・事 業 名	種 目	場 所
5月16日	第57回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	北海道/函館
16日～23日	第14回ツアー・オブ・ジャパン	RR	堺・奈良・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京
22日～23日	第50回東日本学生選手権自転車競技大会	TR	山梨/境川
23日	MTB J2 緑山 XCO	MTB	神奈川/横浜
23日	第30回西日本学生選手権自転車競技大会	TR	西日本地区
27日～30日	第12回 TOUR de 熊野	RR	和歌山/熊野他
29日～30日	第79回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラック・レース	TR	岐阜/岐阜
29日～30日	2010年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会	TR	岐阜/岐阜
30日	MTB ジャパンシリーズ J1 富士見 XCO #3・DHI #2	MTB	長野/富士見
6月3日～6日	第23回トロフェオ・カールスベルク (UCI MJ-2Ncup)	RR	ドイツ/ザールラント
5日～6日	第44回全日本実業団西日本自転車競技大会	TR	大阪/関西 CSC
6日	第26回全日本学生選手権個人ロードレース大会	RR	長野/美麻
6日	2010年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ鹿児島大会	Indoor	鹿児島/鹿児島アリーナ
12日～14日	ACCトラック・アジアカップ2010日本ラウンド	TR	北海道/函館
13日	2010年全日本選手権個人タイム・トライアル・ロードレース	RR	秋田/大湯
13日	第14回全日本実業団個人タイムトライアル選手権大会	RR	長野/樽池
19日	第49回全日本学生選手権チームロードレース大会	RR	埼玉/利根川上流域
20日	第22回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	RR	埼玉/利根川上流域
20日	第44回全日本実業団西日本サイクルロードレース大会	RR	広島/中央森林公園
20日	MTB J2 木島平 XCO	MTB	長野/木島平
26日～27日	第13回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース	RR	広島/中央森林公園
26日～27日	第79回全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロード・レース	RR	広島/中央森林公園
26日～27日	第15回ジュニア全日本選手権ロード・レース	RR	広島/中央森林公園
7月3日～4日	第51回全日本学生選手権自転車競技大会	TR	長野/松本
16日～18日	第23回全日本MTB選手権大会 XCO・DHI・4X	MTB	長野/富士見
18日	第9回全日本実業団サイクルロードレース in 石川	RR	福島/石川
20日～25日	ツール・ド・ラビティビ2010 (UCI MJ-2Ncup)	RR	カナダ/ケベック
25日	第6回全日本実業団サイクルロードレース in 小川	RR	長野/小川
29日～01日	平成22年度全国高等学校総合体育大会	TR・RR	沖縄/名護他・北中城
29日～01日	2010年BMX世界選手権大会	BMX	南アフリカ/ピーターマリッツバーグ
8月1日	MTB ジャパンシリーズ J1 白馬のさか XCO #4	MTB	長野/白馬
6日～08日	2010年ジュニアロード世界選手権自転車競技大会	RR	イタリア/オッフィダ
7日～08日	第41回全日本実業団東日本自転車競技大会	TR	山梨/境川
11日～15日	2010年ジュニアトラック世界選手権自転車競技大会	TR	イタリア/モンテチアリ
18日～22日	第1回ユースオリンピック競技大会	BMX・MTB・RR	シンガポール
20日～22日	第45回全国都道府県対抗自転車競技大会	TR・RR	山口/防府・美祿
26日～29日	文部科学大臣杯第66回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	TR・RR	青森/八戸・階上
29日～	第27回シマノ鈴鹿国際ロードレース大会	RR	三重/鈴鹿
31日～05日	2010年MTB世界選手権大会	MTB	カナダ/モンサンタン
9月2日～05日	第2回全日本ステージ・レース in いわて	RR	岩手/八幡平
5日	MTB J2 草津 DHI	MTB	群馬/草津
16日～20日	ツール・ド・北海道2010	RR	北海道/道南
17日～19日	第51回ツール・ド・イストリア (UCI MJ-2Ncup)	RR	クロアチア/イストリア
18日～19日	第41回全日本実業団自転車競技選手権大会	TR	長野/松本
19日～	日本スポーツマスターズ2010自転車競技会	RR	三重/伊勢
19日～	MTB ジャパンシリーズ J1 富士見 XCO #5・DHI #3	MTB	長野/富士見
23日～	経済産業大臣旗第44回全日本実業団対抗サイクルロードレース大会	RR	静岡/日本 CSC
26日～30日	第65回国民体育大会自転車競技会	TR・RR	千葉/南房総・松戸
26日～85日	MTB ジャパンシリーズ J1 白鳥 DHI #4	MTB	岐阜/郡上
26日～29日	2010年MTBアジア選手権大会	MTB	大韓民国/チェチョン
29日～03日	2010年ロード世界選手権自転車競技大会	RR	オーストラリア/メルボルン
30日～01日	第5回BMXアジア選手権大会	BMX	大韓民国/チェチョン
10月2日～03日	第42回全日本学生室内自転車競技選手権大会	Indoor	大阪/和泉
3日	第46回全日本学生自転車競技新人戦・西日本大会	TR	西日本地区
3日	第46回全日本学生自転車競技新人戦・東日本大会	TR	東日本地区
10日	熊本国際ロード2010	RR	熊本/山鹿・菊池
10日	MTB ジャパンシリーズ J1 瀬女 XCO #6・DHI #5	MTB	石川/白山
16日～17日	第13回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	TR	宮城/大和
17日	第3回全日本実業団サイクルロードレース in 輪島	RR	石川/輪島
24日	2010ジャパンカップサイクルロードレース	RR	栃木/宇都宮
24日	第6回全国ジュニア自転車競技大会	RR	三重/四日市
24日	MTB J2 日本 CSC XCO	MTB	静岡/日本 CSC
11月3日	2010全日本チーム対抗自転車競技大会	TR	静岡/日本 CSC
13日～23日	第16回アジア競技大会	TR・RR・MTB・BMX	中国/広州
13日～14日	ツール・ド・おきなわ2010	RR	沖縄/名護他
21日	関西シクロクロス第2戦マキノラウンド (UCI クラス2)	CX	滋賀/高島
26日～28日	2010年世界室内自転車競技選手権大会	Indoor	ドイツ/シュツットガルト
12月2日～04日	2010-2011UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#1	TR	オーストラリア/メルボルン
11日～12日	第41回全日本室内自転車競技選手権大会	Indoor	関西地区
12日	第16回全日本シクロクロス選手権大会	CX	滋賀/野洲
16日～18日	2010-2011UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#2	TR	コロンビア/カリ
2011年1月21日～23日	2010-2011UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#3	TR	中国/北京
29日～30日	2011年シクロクロス世界選手権大会	CX	ドイツ/ザンクトヴェンデル
2月18日～20日	2010-2011UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#4	TR	イギリス/マンチェスター
3月23日～27日	2011年トラック世界選手権自転車競技大会	TR	オランダ/アペルドルン
24日～27日	平成22年度全国高等学校選抜自転車競技大会	TR・RR	福岡/北九州

※ TR: トラックレース、RR: ロードレース、CX: シクロクロス、MTB: マウンテンバイク、BMX: BMX、Indoor: 室内競技



夢への補助輪。

RING!RING!プロジェクト
—— 競輪の補助事業 ——

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

2010 Crown-Haitai International BMX Competition (UCI クラス5) (2010/4/17 大韓民国・ソウル)

- 1 Maris STROMBERGS LAT
- 2 Raymon VAN DER BIEZENED
- 3 Edzus TREIMANIS LAT
- 6 三瓶 将廣 JPN

ソウル・ド・コリア2010 (UCI アジアツアー-2.2) (2010/4/22-5/2 大韓民国)

個人総合成績 (1388.3km)

- 1 FRIEDMAN Michael Jelly Belly 34:29:06
- 2 ANTHONY Jesse Kelly Benefit 34:29:23
- 3 西谷 泰治 愛知 愛三工業 34:29:34
- 10 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 34:32:24
- 23 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 34:40:32
- 28 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 34:40:51
- 40 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 34:56:11
- 50 越海 誠一 大分 日本大学 35:08:31

団体総合成績

- 1 Jelly Belly P/B Kenda 103:31:45
- 2 Hong Kong China N.T. 103:34:16
- 3 日本ナショナルチーム 103:42:20

第1ステージ (175.5 km)

- 1 YEUNG Ying Hon HKG 4:12:24
- 2 WONG Kam Po HKG 4:14:38
- 3 CHO Ho Sung Seoul C. 4:14:38
- 13 西谷 泰治 愛知 愛三工業 4:14:38
- 52 越海 誠一 大分 日本大学 4:17:31
- 53 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 4:17:31
- 68 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 4:17:31
- 69 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 4:17:31
- 80 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 4:17:31

第2ステージ (138.6km)

- 1 YOO Ki Hong Geumsan 3:09:49
- 2 FRIEDMAN Michael Jelly Belly 3:09:51
- 3 ROUTLEY William Jelly Belly 3:09:53
- 4 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 3:09:53
- 41 西谷 泰治 愛知 愛三工業 3:10:06
- 42 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 3:10:06
- 49 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 3:10:06
- 81 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 3:10:06
- 85 越海 誠一 大分 日本大学 3:10:06

第3ステージ (219km)

- 1 PARK Seon Ho Seoul C. 5:39:00
- 2 PARK Sung Baek KSP0 5:39:00
- 3 MANAN Anuar Geumsan 5:39:00
- 4 西谷 泰治 愛知 愛三工業 5:39:00
- 15 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 5:39:00
- 48 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 5:39:00
- 50 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 5:39:00

- 55 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 5:39:00
- 79 越海 誠一 大分 日本大学 5:45:18

第4ステージ (149.7km)

- 1 SHAEKHOV Vadim UZB 3:34:02
- 2 XU Gang Max S.S. 3:34:02
- 3 ITAMI Kenji BGT 3:34:02
- 9 西谷 泰治 愛知 愛三工業 3:34:05
- 27 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 3:34:05
- 49 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 3:34:05
- 59 越海 誠一 大分 日本大学 3:34:05
- 60 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 3:34:05
- 71 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 3:34:05

第5ステージ (74.3km)

- 1 PARK Seon Ho Seoul C. 1:49:12
- 2 SHIN Dong Hyun KSP0 1:49:12
- 3 PARK Sung Baek KSP0 1:49:12
- 4 西谷 泰治 愛知 愛三工業 1:49:12
- 34 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 1:49:12
- 52 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 1:49:12
- 58 越海 誠一 大分 日本大学 1:49:12
- 62 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 1:49:12
- 79 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 1:49:12

第6ステージ (53.2km)

- 1 GONG Hyo Suk Seoul C. 1:12:08
- 2 JIAO Peng Da Max S.S. 1:12:08
- 3 ALIZADEH Hossein Tabriz 1:12:08
- 9 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 1:12:10
- 16 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 1:12:10
- 34 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 1:12:10
- 46 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 1:12:10
- 56 西谷 泰治 愛知 愛三工業 1:12:10
- 72 越海 誠一 大分 日本大学 1:13:47

第7ステージ (144km)

- 1 JANG Gyeong Gu Gyeonggi-do 3:31:52
- 2 LEE Ki Seok KOR Reg.2 3:32:28
- 3 FRIEDMAN Michael Jelly Belly 3:32:44
- 7 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 3:32:44
- 10 西谷 泰治 愛知 愛三工業 3:32:47
- 31 越海 誠一 大分 日本大学 3:41:00
- 41 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 3:41:00
- 45 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 3:41:00
- 46 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 3:41:00

第8ステージ (225.2km)

- 1 CHOI Jonggyun EMG 5:56:04
- 2 PARK Sung Baek KSP0 5:56:04
- 3 JEONG Eun Seong Gyeonggi-do 5:59:09
- 5 西谷 泰治 愛知 愛三工業 5:59:09
- 9 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 5:59:09
- 50 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 5:59:09
- 52 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 5:59:09
- 53 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 5:59:09
- 66 越海 誠一 大分 日本大学 6:01:30

第9ステージ (154.5km)

- 1 GONG Hyo Suk Seoul C. 4:08:49
- 2 KIM Dong Hun KSP0 4:08:51
- 3 YOO Ki Hong Geumsan 4:08:51
- 5 西谷 泰治 愛知 愛三工業 4:10:41
- 29 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 4:10:41
- 31 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 4:10:41
- 33 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 4:10:46
- 55 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 4:26:17
- 57 越海 誠一 大分 日本大学 4:26:17

第10ステージ (54.3km)

- 1 Cheung-King Log HKG 1:07:16
- 2 HWANG Hee Gyeong Gyeonggi-do 1:07:41
- 3 LEE Ki Seok KOR Reg.2 1:07:41
- 4 内間 康平 沖縄 鹿屋体大 1:07:41
- 6 西谷 泰治 愛知 愛三工業 1:07:46
- 26 伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体大 1:07:46
- 28 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 1:07:46
- 34 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 1:07:57
- 45 越海 誠一 大分 日本大学 1:09:45

第44回全日本実業団東日本サイクルロードレース (2010/4/24 群馬・群馬CSC)

TR (120km)

- 1 畑中 勇介 シムルレーシング 3:04:35
- 2 飯島 誠 ブリヂング・アンカー 3:04:47
- 3 村上 純平 シムルレーシング 3:05:06
- 4 岩島 啓太 なるしまフレンド 3:08:32
- 5 山根 理史 湘南ベルマーレ 3:08:32
- 6 森本 誠 イー・エム・アイト 3:08:33
- 7 西谷 雅史 オー・エス・アイ・プラス 3:08:34
- 8 長沼 隆行 宇都宮ブリッツェン 3:11:08
- 9 辻 善光 宇都宮ブリッツェン 3:11:08
- 10 鈴木 讓 シムルレーシング 3:11:09

FR (30km)

- 1 萩原麻由子 サイクルレースあさひ 51:36
- 2 堀 記理子 クラブ・シルベスト 54:09
- 3 西 加南子 LUMINARIA 54:12
- 4 福本 千佳 Ready Go Japan 54:16
- 5 牧瀬 翼 サイクルレースあさひ 54:21
- 6 高橋 奈美 JBCF J-FEMININ 54:22
- 7 米田 和美 Ready Go Japan 54:22
- 8 西塚 優美 SQUADRA CORSA 54:22
- 9 針谷千紗子 サイクルレースあさひ 54:33
- 10 堀 友紀代 Ready Go Japan 56:53

2010年UCI MTBワールドカップ第1戦 (2010/4/24-25 ｲｷﾞﾘｽ・Yorkshire, Dalby Forest)

XCO 男子トリート (43.07km)

- 1 SCHURTER Nino SUI 1:54:52
- 2 ABSALON Julien FRA +00:01
- 3 STANDER Burry RSA +00:14
- 56 山本 幸平 JPN +08:42

XCO 女子トリート (36.25km)

- 1 KALENTIEVA Irina RUS 1:54:57
- 2 KOERBER Willow USA +00:11
- 3 NASH Katerina CZE +00:28
- 33 片山 梨絵 JPN +09:01

MTB ジャパンシリーズ J 八幡浜 XCO #1 (2010/4/25 愛媛・八幡浜)

XCO Elite Men (39.69km)

- 1 山本 和弘 東京 キャパテール 2:01:22.99
- 2 小野寺 健 京都 Subaru 2:01:51.38
- 3 武井 亨介 茨城 フォルツァ! 2:04:20.91
- 4 Cooper Dylan 兵庫 TREK 2:05:31.51
- 5 斎藤 亮 長野 コタック 2:06:24.02
- 6 門田 基志 愛媛 GIANT 2:07:55.21
- 7 松本 駿 長野 TREK 2:10:44.34
- 8 合田 正之 埼玉 3UP 2:11:13.15
- 9 江下健太郎 長野 over-do 2:11:43.69
- 10 合田 啓祐 長野 Specialized 2:14:18.84

XCO Elite Women (28.35km)

- 1 中込由香里 長野 SY-Nak 1:51:40.65
- 2 矢沢みつみ 山梨 みっつん 1:56:18.57
- 3 西尾 美子 香川 焼鳥山鳥 2:03:09.31
- 4 原田 彩子 東京 FITTE 2:03:52.35
- 5 山本 佳苗 岡山 BMC 2:10:15.93
- 6 田崎 綾 千葉 BATAVIA 2:12:52.06
- 7 埜真 賢美 岡山 クルーズ 2:15:37.86
- 8 岩出 愛未 愛知 club SY-nak -1lap
- 9 伊坂 和花 兵庫 TSUKUSHI -3laps

2010年UCIMTBワールドカップ第2戦
(2010/5/1-2 ヴェルダ・Houffalize)

XCO 男子11-ト (31.82km)

- 1 HERMIDA RAMOS José Antonio ESP 1:44:19
- 2 FUMIC Manuel GER +00:57
- 3 KURSCHAT Wolfram GER +01:25
- 30 山本 幸平 JPN +08:09

XCO 女子11-ト (26.28km)

- 1 LECHNER Eva ITA 1:40:30
- 2 KOERBER Willow USA +00:05
- 3 OSL Elisabeth AUT +00:36
- 37 片山 梨絵 JPN +12:04

第12回全日本学生選手権クワリム大会
(2010/5/2 滋賀・立命館大学)

男子 (42.0km)

- 1 元砂 勇雪 鹿屋体育大学 26p
- 2 佐々木 龍 早稲田大学 22p
- 3 木守 望 京都産業大学 18p

- 4 堀内 俊介 中央大学 14p
- 5 榊原 健一 中京大学 7p
- 6 入部正太郎 早稲田大学 6p
- 7 野中 竜馬 鹿屋体育大学 4p
- 8 笠原 恭輔 中央大学 2p
- 9 三浦 康高 早稲田大学 2p
- 10 山森 雅也 京都産業大学

女子 (14.7km)

- 1 近藤 美子 鹿屋体育大学 23:49
- 2 上野みなみ 鹿屋体育大学 23:49
- 3 木村 亜美 鹿屋体育大学 23:58
- 4 石井 愛 立命館大学 25:19
- 5 松橋 未来 立命館大学 26:35

MTB ジャパンシリーズ J1 箱館山 XCO#2・DHI#1
(2010/5/2-4 滋賀・高島)

DHI Elite Men (km)

- 1 青木 卓也 東京 GIANT 3:22.517
- 2 清水 一輝 愛知 AKI FACT. 3:22.716
- 3 井手川直樹 埼玉 EVIL 3:23.071
- 4 向原 健司 大阪 Transition 3:23.781
- 5 安達 靖 愛知 Ikuzawa 3:24.054
- 6 井本はじめ 兵庫 Transition 3:25.546
- 7 永田 隼也 神奈川 A&F 3:27.126
- 8 九島 勇気 神奈川 KHS 3:28.138
- 9 九島 賛汰 神奈川 KHS 3:28.346
- 10 小山 航 長野 Transition 3:28.515

DHI Elite Women (km)

- 1 末政 実緒 兵庫 Funfancy 3:44.652
- 2 飯塚 朋子 東京 Corratec 4:11.255

- 3 中川ヒロカ 大阪 輪娛ロード 4:19.010
- 4 服部 良子 神奈川 風魔 横浜 4:19.660
- 5 宮下 瑠衣 兵庫 4:23.476
- 6 中村 美佳 福井 Funcross 4:25.037
- 7 木下 論子 奈良 觸體団 4:32.596
- 8 小林可奈子 長野 AKI FACT 4:56.751
- 9 村田 実里 山口 Van-Quish 5:00.610
- 10 楳本百合子 兵庫 KagoKago 5:09.324

XCO Elite Men (40.8km)

- 1 武井 亨介 茨城 フォルツァ! 1:52:42.69
- 2 平野 星矢 長野 1:53:42.56
- 3 斉藤 亮 長野 コラテック 1:54:42.18
- 4 山本 和弘 東京 キャノンボール 1:54:51.46
- 5 門田 基志 愛媛 GIANT 1:55:34.05
- 6 Cooper Dylan 兵庫 TREK 1:56:54.23
- 7 松本 駿 長野 TREK 1:59:31.59
- 8 小野寺 健 京都 Subaru 1:59:45.26
- 9 合田 啓祐 長野 Specialized 2:00:32.41
- 10 千田 尚孝 愛知 KHS 2:01:13.63

XCO Elite Women (25.5km)

- 1 中込由香里 長野 SY-Nak 1:29:27.47
- 2 矢沢みつみ 山梨 1:31:19.47
- 3 田近 郁美 岐阜 GodHill 1:32:08.55
- 4 小林可奈子 長野 AKI Fact 1:35:10.25
- 5 岩出 愛未 愛知 SY-nak 1:39:01.73
- 6 西尾 美子 香川 焼鳥山鳥 1:39:32.77
- 7 田崎 綾 千葉 Batavia 1:41:53.87
- 8 山本 佳苗 岡山 BMC 1:43:31.55
- 9 埜真 賢美 岡山 クルーズ 1:45:29.76
- 10 田中 恵美 長野 パワーステーツ -1lap



日本新記録

■ チームスプリント・250m×2

女子シニア 37秒 445 日本チーム (石井寛子、前田佳代乃)

2010/04/16 UAE・シャルジャ

■ スタンディングスタート・3km 団体

女子シニア 3分 58秒 871 日本チーム (萩原麻由子、和田見里美、上野みなみ)

2010/04/15 UAE・シャルジャ

おそろいのウェアで走りたいな

世界一カッコいいのをつくろうよ

仲間と、ウェアをつくろう。

おそろいで走りたいなら

5着からオーダー

40営業日*で完成

アイテム多彩・デザイン自由

お近くのショップで
SYSTEM
システムユー

個性を表現したいなら

1着からオーダー

30営業日*で完成

選べるカラー・柄

ホームページで
SYSTEM
システムアイ

www.pearlizumi.co.jp/sysi

*上記はデザイン確認とサイズ・枚数が確定し、最終的に発注をいただいてからの製作期間となります。

オリジナルウェアづくりの流れがわかる『オーダーガイドブック』をご希望の方はホームページまで。

〒130-0026 東京都墨田区両国2-4-2 株式会社パールイズミ

仲間と、ウェアをつくろう!

パールイズミ

検索

www.pearlizumi.co.jp

PEARLIZUMI

チョンミンアイランドおよび女子ロードワールドカップ 日本代表選手団

大会名 チョンミンアイランド (UCI EW 2.1)
大会期間 2010年5月5日～7日
大会名 女子ロードワールドカップ
大会期間 2010年5月9日
開催場所 中華人民共和国・上海
派遣期間 2010/5/3-10
代表選手団
監督 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)
メカニック 鬼原 積 (JCF 強化スタッフ)
マッサージ 石田 宗男 (JCF 強化スタッフ)
選手 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)
豊岡 英子 (大阪・パナソニックレディーズ)
牧瀬 翼 (佐賀・MUUR ZERO)
森田 正美 (神奈川・チームブリヂストン・アンカー)
明珍 裕子 (岐阜・朝日大学)

クルス・ド・ラ・ペ・ジュニオール 日本代表選手団

大会名 クルス・ド・ラ・ペ・ジュニオール
(UCI ジュニアネイションズカップ)
開催場所 チェコ共和国
大会期間 2010年5月5日～9日
派遣期間 2010年5月3日～11日
代表選手団
監督 坂井田米治 (ジュニア強化育成部会長)
コーチ 柿木 孝之 (強化スタッフ)
Olaf Janson (現地スタッフ)
選手 黒枝 士揮 (大分・鹿屋体育大学)
六峰 亘 (大分)
長瀬 幸治 (埼玉・栄北高校)
西川 尚吾 (東京・昭和第一学園高校)
中井 俊亮 (奈良・榛生昇陽高校)
池部 壮太 (大分・別府商業高校)

ツール・ド・コリア 2010 日本代表選手団

大会名 ツール・ド・コリア 2010
(UCI アジアツアー 2.2)
開催場所 大韓民国
大会期間 2010年4月22日～5月2日
派遣期間 2010年4月20日～5月3日
代表選手団
監督 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)
メカニック 鬼原 積 (JCF 強化スタッフ)
マッサージ 石田 宗男 (JCF 強化スタッフ)
選手 西谷 泰治 (愛知・愛三工業)・綾部 勇成 (JPCA・愛三工業)
越海 誠一 (大分・日本大学)・伊藤 雅和 (鹿児島・鹿屋体育大学)
内間 康平 (沖縄・鹿屋体育大学)・吉田 隼人 (奈良・鹿屋体育大学)

ユースオリンピック・プレ大会 日本代表選手団

大会名 ユースオリンピック・プレ大会
開催場所 シンガポール
大会期間 2010年5月27日～30日
派遣期間 2010年5月26日～31日
代表選手団
監督 宮城 力 (東京)
選手 長迫 吉拓 (岡山)
山本 兆 (長野)
岩出 愛未 (愛知)

加盟団体事務局変更のお知らせ

●山梨県自転車競技連盟
〒403-0017 山梨県富士吉田市新西原 1-23-1
県立富士北稜高等学校内 川上等様
tel.0555-22-4161 fax.0555-30-0173 kawakami@kai.ed.jp

●愛媛県自転車競技連盟
〒790-0021 愛媛県松山市真砂町 1 番地
愛媛県立松山工業高等学校内
tel.089-931-8195 fax.089-931-8860

平成 22 年度 JCF 選手強化コーチ

折本 裕樹 (全般・新任)
村田 正洋 (情報担当・新任)
佐藤 孝之 (ジュニア担当・新任)
吉井 功治 (トラック中距離担当・新任)
高橋 松吉 (ロード担当・再任)

連盟の動き (3月下旬～5月上旬)

3月29日	ツアー・オブ・タイランド 2010 日本代表選手団出発	於：タイ王国・ウボンラチャタニ→帰国 4/8
31日	ジュニア・アジア選手権直前合宿	於：静岡・日本 CSC (～4/5)
4月6日	平成 22 年度第 1 回広報部会	於：東京・日本自転車会館 3 号館 3 階
5日	2010 年アジア選手権日本代表選手団出発	於：アラブ首長国連邦・シャルジャ→帰国 4/20
7日	2010 年 ACC トラックアジアカップ実行委員会	於：北海道・函館
15日	2011 年室内世界選手権実行委員会	於：鹿児島・鹿児島
20日	ツール・ド・コリア日本代表選手団出発	於：大韓民国 →帰国 5/3
21日	トラック強化合宿	於：群馬・グリーンドーム前橋 (～25日)
26日	平成 22 年度第 1 回強化委員会	於：群馬・前橋テルサ
30日	ジュニア・トラック強化合宿	於：静岡・日本 CSC (～5/4)
5月5日	平成 22 年度第 1 回競技運営委員会	於：東京・日本自転車会館 3 号館 3 階



国際自転車競技連合公認 Class 1 レース

“アジア最高峰のトラックレースイベント函館決戦”



ACCトラックアジアカップ 2010 日本ラウンド

ACC Track Asia Cup 2010

Japan Round
HAKODATE

入場無料

期間中、毎日100名に来場者プレゼントが当たる!
連日ご来場先着500名様に整理券を配布し、
その中から抽選で100名様に電動アシスト自転車他
素敵なプレゼントが当たるイベントを実施します!

[大会・来場者プレゼントに関するお問い合わせ]
ACCトラックアジアカップ2010 日本ラウンド事務局
TEL: 03-3589-0723
<http://www.acctrack-asiacup.com>



函館けいりん



参加予定国：13 カ国・地域 (2010年5月7日現在)

ホンコン・チャイナ / インドネシア / インド / イラン / 日本 /
カザフスタン / キルギスタン / クウェート / レバノン /
マレーシア / タイ / チャイニーズ・タイペイ / ウズベキスタン

6月12日(土)~14日(月) 函館競輪場「弥彦記念GIII場外」と同時開催
アジアカップ用の観客席としてメインスタンド3F及びトラック外周エリアを無料開放

Photo: Kenji NAKAMURA

6月12日(土)~14日(月) 午前8時開場・午前9時競技開始

※天候及び他の理由により、競技開始時刻及び競技種目が変更になることがあります。

北海道函館市・函館競輪場

<http://keirin.hakodate.jp> 北海道函館市金城町 10-8

◆JR函館駅から ・バス 10分下車徒歩 5分 ・タクシー 8分

◆函館空港から ・空港バス 12分下車徒歩 5分 ・タクシー 10分

男子:エリート6種目、ジュニア5種目、女子:エリート6種目、ジュニア5種目

- 主催：アジア自転車競技連合 / 財団法人日本自転車競技連盟
- 主管：ACCトラックアジアカップ 2010 日本ラウンド実行委員会
(事務局：財団法人日本自転車競技連盟内)
- 後援：外務省 / 経済産業省 / 文部科学省 / 函館市 / 函館市教育委員会 /
社団法人函館国際コンベンション協会 / 財団法人日本体育協会 /
財団法人日本オリンピック委員会 / 財団法人JKA / 社団法人全国競輪施行者協議会 /
財団法人日本自転車競技会 / 社団法人日本競輪選手会 / 全国競輪場施設協会 /
財団法人日本自転車普及協会
- 協力：社団法人日本競輪選手会北海道支部 / 北海道自転車競技連盟 /
財団法人日本自転車競技会北日本競技部 /
コンチネンタル・サイクリング・センター修善寺 / シクロチャンネル / 他



この大会は競輪の補助を受けて開催します。

<http://ringring-keirin.jp>

日本が生んだ世界のスポーツ



男子エリートロード、9名の先頭集団
 (カザフ①の陰に清水、一番右が宮澤)



男子エリートロード、先頭集団内の宮澤（中央）と清水



女子エリートロードの先頭集団



< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.169 2010年5月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟
 発行人/岩楯昭一
 編集人/井関康正
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局
 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内
 TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>



この資料および〇〇の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。
 © (財)日本自転車競技連盟 2010 本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。
 ※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。